事業評価シート

（重要課題名：こども、高齢者、障害者が安心して暮らせる地域を創る）

NO	－ 1

部課室名	健康福祉部 健康増進課	事業名	思春期相談センター事業費
事業期間	平成１５年度～１９年度	記入者	母子保健担当　渡辺　内（９６７６）
見積額	９，０９９ 千円（(－)９，０８７千円）		

◇　事業の説明（目的及び内容の説明）

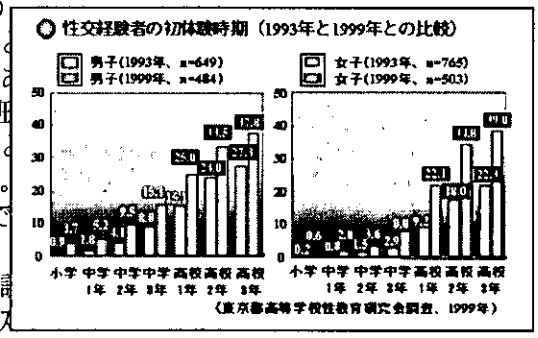
望まない妊娠による人工妊娠中絶の増加や、性感染症の蔓延など、思春期を取り巻くいろいろな課題に対応するため、性に関して気軽に相談ができる場として、思春期相談センター「PRINK」を設置する。センターの開設は５年間の限り経費とし、常勤職員１名、非常勤職員１名の体制で実施する。

あわせて、ピアカウンセラー養成講座修了生等を活用しながら、思春期の若者が、自らまた友人と共に考え、学べるような機会を提供するため、イベント・常設パネル展・定期的な思春期教室、ﾋﾟｱｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ・電話相談等を実施するなど、若者が気軽に集える場所とし、性に関する正しい知識や情報の提供を行う。

１　ニーズの説明

①2001 年に厚生労働省 HIV 社会疫学研究班が地方の２県で実施した高校生の性行動の実態調査による高校２年生の性交経験率は男女とも約２～３割であった。（２００１年厚生労働省 HIV 社会疫学研究班

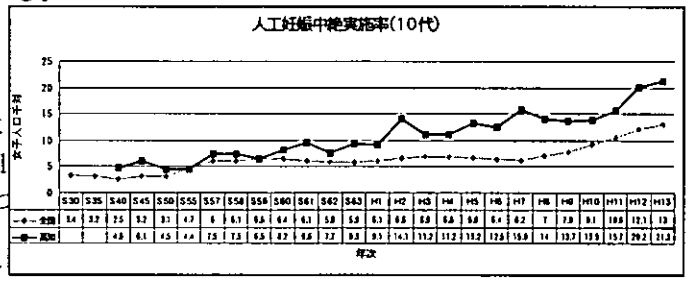
さらに東京都高等学校性教育研究会調査による性交経験者は、男女ともに各年代で上昇している。もはや、「寝た子を起こすな」的な考え方の教育では、解決できない。



②感染症の現状は、当課が本年度実施している実態調査からも解るとおり、性器ｸﾗﾐｼﾞｱ感染症性器ﾍﾙﾍﾟｽｳｲﾙｽ感染症、尖形ｺﾝｼﾞﾛｰﾑ、淋菌感染症の４疾患の罹患率が、女性で全国よりも 20～24 歳で 1.67 倍、15～19 歳で 1.15 倍の高値を示している。

③10 代の人工妊娠中絶率が年々増加している。

10 代の人工妊娠中絶率は、全国平均を大きく上回っており、平成 13 年の実施率が全国 13.0 に対し高知県 21 と全国平均の約２倍近い実施率となっている。



平成 13 年 10 月 1 日現在の 15 歳～19 歳までの女子人口は 22,617 人であり、同世代の平成 13 年の人工妊娠中絶数は 476 件である。単純計算で、50 人に１人、クラスに１人が平成 13 年に中絶を経験したこととなる。

④　相談相手は？

平成 11 年度に県が実施した若年者の妊娠の実態調査によると、性行動に影響を与えた性情報として、友人をあげている者が最も多い。次いで雑誌類、テレビ・ビデオ等の影響を強く受けており、親や教師と答えた人は、いずれも 10％に満たなかった。このことからも、正確な知識を有する仲間（ピア）の存在が必要と考えられる。

また自由記載欄の意見として、「妊娠について気軽に話しに行けるところが身近にあったらいいと思う。」「妊娠したことで精神的に辛くて毎日泣いていた。きっと私のように悩んでいる人も多いと思うので、心のケアをしてくれる何かが欲しい。」等の意見が聴かれた。

このような状況から現在の若者に必要なのは、自分にとって正確なかつ適正な情報と、ともに考え相談できる仲間や気軽に集えかつ相談できる場所と考えられるが、性感染症・人工妊娠中絶の現状を見ると、それに十分対応できているとは言いがたい状況にある。

２　手段の選択理由

①　平成 15 年 8 月に開設して以降の相談等は下記のとおりであり、センターを利用している若者は人工妊娠中絶や避妊などについて、一緒に来所している友達同士ではなしたり、センター職員と話したりしている。オープンな雰囲気で、恥ずかしがらずに性の話しができることから、「今までこんなに詳しく教えてくれるところはなかった」「こんなこと、今まで人の前で話したことない」という感想がよく聞かれる。

「PRINK」月別利用者数

月	ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽ			面接相談			電話相談			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
8	17	182	199	3	23	26	4	2	6	24	207	231
9	77	561	638	8	99	107	15	4	19	100	664	764
10	79	291	370	17	41	58	41	12	53	137	344	481

「PRINK」相談内容別実績(１回の相談につき複数内容あり)

月	自慰	性器	包茎	性交	性欲	射精	性感染症	月経	妊娠	避妊	中絶	結婚	不妊	性倒錯	性虐待	その他の性知識	男女交際	人間関係	精神・心	身体について	問題行動	他機関紹介	その他	計
8	1	2	1	3	0	0	5	11	3	13	0	0	1	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	45
9	2	7	2	4	3	1	53	39	9	62	1	0	0	0	0	0	13	1	0	3	0	0	7	207
10	7	7	4	5	14	0	24	16	13	27	2	0	0	0	4	1	18	1	1	3	1	0	6	154

②平成12年度から実施しているピアカウンセラー養成講座の修了生(以下「ピア」という。)は、正しい知識を持った同年代の若者として相談相手として適任であり、また、この事業でピアの活動の場が確保されることにより、若者自身の継続的で自主的な取り組みにつながることが期待される。

ピアが継続して活動できるようになれば、専門家では敷居が高くて相談できないでいる若者にも、気軽に立ち寄れ、また相談できる場所ができる。

東京で活動しているＵ－ＣＯＭ（学生の任意組織）は、（社）日本家族計画協会のサポートにより、多くの学若者が自主的な活動を実施している。

ただ、本県には（社）日本家族計画協会のような団体はなく、当面は行政主導で、ピアの活動や相談等を支援することが不可欠である。

③東京原宿にある「コンドームショップ」は、昼夜を問わず若者がカップルや友達同士で頻繁に出入りしている。オープンな雰囲気でコンドームを展示・販売していることがその要因であると考えられる。

センターの運営にあたっては、性の問題は人に話しづらい側面もあり、オープンで気軽に立ち寄り相談できる雰囲気作りが欠かせない。

３　事業の全体コストの把握　（評価の対象ではありません）

店舗借上料及び商店街負担金	３，４５０千円	啓発・広報のイベント委託料	２，１００千円
非常勤職員報酬・共済費	２，０４１千円	啓発・広報用ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ等作成	３００千円
光熱水費等センター運営費	１，１３５千円	展示用教材（備品）購入費	７３千円

４　目標水準の設定　　[（事後評価の時期　Ｈ　　年　　月）ただし、５年以内]

到達目標	①人工妊娠中絶率や性感染症罹患率の低下を目標とするが、この事業でどれだけの低減が望めるかについては設定しづらいため、相談センターにおける相談件数を目標水準とする。 平成16年度の相談件数　電話相談　460件(230日開設×2件/日) 面接相談　690件(230日開設×3件/日) ｾﾝﾀｰ来所者数　4,600人(230日開設×20人) ②５年後までにピアの活動をＮＰＯ的な活動（自主財源を持つ団体とすることは不可能）にまで発展させる。
現状及び根拠	①思春期相談センター利用実績　→　２手段の選択理由に記載 ②平成14年度　ピアの活動実績（講座　１、２期生、高知医大生） 高等学校等性教育のスタッフ　２回　３名 ３期生講座支援　６回　33名 専門学校でのピアカウンセリング　１回　９名 ｴｲｽﾞｷｬﾝﾍﾟｰﾝ手伝い　１回　４名 平成１５年度(10月まで)　ピアの活動実績（講座　１、２、３期生、高知医大生） 高等学校等性教育のスタッフ　２回　12名 ４期生講座支援　２回　６名 10代のためのピアカウンセリング　１回　13名 思春期相談センターのボランティアとして活動できる学生を登録中（現在　４名）

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

宮崎県におけるピアカウンセリング事業の取り組み

共同研究者　田中　美幸　（宮崎県保健薬務課）
前田　ひとみ（宮崎大学医学部看護学科）
木添　茂子　（宮崎県日南保健所：前保健薬務課）

1　はじめに

思春期保健教育をより効果的に実施するために、宮崎県の全保健所において、ピアカウンセリングに取り組んで３年が経過した（経過については平成１４年度報告[1)]）。３年間の活動を踏まえ、この事業の効果や継続するための課題が示唆された。

2　平成１５年度の実施手順

①年度当初の打合会議（６月）
大学生を指導する前田と保健所の担当者が実施する際の連絡方法や日程等について話し合う。

②本課が教育委員会に協力依頼。

③各保健所は高校へ事業の案内と大学との日程調整。
保健所は管内の全高校に呼びかけし、高校生の参加者を募ることを前提としていたが、１保健所においては、高校側からの要望もあり１つの高校を限定して実施している。

④実施（８月～１２月）
全県保健所（８保健所）で実施。
養成者数計　１２４人
参加校数計　高校１９校・大学１校

3　当日関わったスタッフ及び人数

①宮崎大学医学部看護学科職員（１～２人）

②宮崎大学医学部看護学科学生（ピアカウンセラー１０～１２人）

③保健所保健師（１～２人）

④ボランティア（６人）：１保健所において、昨年参加した高校生が参加。

※限定して実施した高校では、校長、教頭、担当教諭が見学

4　ピアカウンセラーの養成

ピアカウンセラーの養成は、宮崎大学医学部看護学科で行った。看護学科が新設されて３年目になり、養成されたピアカウンセラーの数は１年目１０人、２年目は５人、３年目は１９人である（全数３４人）。

5　プログラムの紹介（資料参照）

基本的な考え方：性に関わる問題は個別的で私的な部分が含まれているので、本音で話すためにはしっかりと仲間づくりが出来ていることが必要である。そのため、１日目は自分自身について、また仲間づくりやコミュニケーションスキルについて考えることを重点においたプログラムを展開し、２日目に性に関するプログラムへと移るようにしている。

6　事業担当者や参加者等の感想及び意見

＜保健所保健師＞

・性教育の一手法としては良いと思われるが、内容が高校生に伝わりにくいのか受講生が非常に少ない。

・学校側としては、学生の休日を利用すること等により講座に２日間の日程を確保することが難しいこと、実施までの保健所側の労力を考えると、実施のあり方について検討する必要がある。

・参加した高校生が翌年も参加を希望するなど、参加者にとって高校生活を送る上で役に立つ内容であると考える。

・受講した高校生に対する継続した支援が難しい。

・保健所の役割について、はっきり納得できなかった。

・事業に対する学校長の理解及び協力に差が

ある。教育委員会との調整が必要。
・ピアカウンセラーの養成を１大学の学生だけでなく、他の大学及び専門学校の学生にも呼びかけ養成を図っていく。
・ピアカウンセラーの活動の場を広げられるような援助が必要。
・事業効果の評価を明瞭にしていく。

＜参加した高校生・学校側＞
・ゲームなど楽しくでき、大学生・他の高校生とも友達になれた。今回は“性”でしたが、薬物・男女交際・恋愛などについてもしてみたい。
・自分が大学生のようにやってみたい。
・参加してよかった。学ぶことが多かった。
・かたい勉強かと思ったら、取り組みやすくて楽しかった。知らないことを勉強できて良かった。
・養護学校生の参加もあったが、障害の有無に関係なく同じ高校生として意見を求められたりすることがよい機会となった（養護教諭）。

＜大学生の声＞
・高校生が気軽な気持ちで参加できるように企画したい。
・高校生が「参加させられるの」ではなく、自分から「参加する」ような、楽しくわかりやすいプログラムを進めていきたい。
・高校生の中でも、本当に性に対する問題を持っている人が受け入れられるようにしたい。
・高校生に、自分を振り返ったり、性について考えられたり、これからの人生に繋がるきっかけにしたい。
・もっと多くの人に活動を知ってもらいたい。

7　考察及びまとめ

事業を効果的に継続していくためには、以下の点に留意しながらすすめていくことが必要である。

＜関係機関との連携＞

初年度、ピアカウンセリングについて共通認識を持つということを目的に研修会を開催している。しかし、今年度本課担当及び保健所担当者が半数変わったこともあり、保健所保健師の役割についての認識に格差がみられた。これを解消するためには、本課及び保健所担当者と大学がしっかり情報を交換しそれぞれの役割を理解することが必要である。また、高校生を対象に実施するため、教育委員会との連携は不可欠である。本課は、事業が効果的かつ円滑に実施できるように、全体のコーディネーターとしての役割を担っていかなければならない。

＜ピアカウンセラー養成＞

現在、１大学でピアカウンセラーが養成されており、３４人が活動している。毎年参加する大学生の数は増えているが、来年度から卒業する学生がでてくることを考えると人数を考慮しながら計画的な養成について検討する必要がある。また、今後は、他の大学や専門学校にも呼びかけを行い、ピアカウンセラーを養成する必要がある。また、身近で継続した教育を実施できる教員の存在も必要となる。

＜ピアカウンセラー活動の場の確保＞

講座に参加した高校生から大学生に、電子メールをとおして悩みや相談が送られてきている。このことから、講座に参加した高校生をフォローできる体制、相談窓口の設置等を検討する必要がある。

＜指導者の養成＞

現在、保健所保健師は黒子的存在で携わっているが、保健師の質を高めていくための研修を年１回は実施していく必要があると考える。

8　今後の課題

・保健所保健師の役割について、共通認識を

持つ。

・本課担当及び保健所保健師と大学の指導者が、情報交換できる機会をできるだけ多く持ち、プログラムの内容等について一緒に検討する。

・現在、ピアカウンセラー養成は１大学のみであるが、実施はどうしても夏休みに集中するため、日程調整が難しい。また、大学から遠隔地にある保健所までの移動時間等を考えるとピアカウンセラーが県内に分散している状態にするのが望ましい。

・フォローできる体制の構築が必要である。

・教育庁と連携強化が必要である。

9　おわりに

宮崎県では、平成１６年度までこの事業を継続して、これまでの活動からでてきた課題について、関係者全員で検討することとしている。最終年度としての４年間の事業評価の実施、さらに平成１７年度以降どのように展開していくか検討する重要な年となる。思春期保健教育のより効果的な実施に向け取り組んでいきたい。

参考文献

１）平成１４年度厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書

資料

【 プログラム 】

タイトル："自分探しの散歩道"

＜ 1日目 ＞

ねらい：1　自分自身のいろいろな面を知り、自分についての理解を深める。
　　2　自分らしさと他人を認め合うことの重要性を知る。
　　3　避妊と性感染予防についての知識を得て、お互いを尊重し、夢の実現に向けた人生を歩むためにどのように行動したらよいかを考えるきっかけとする。

タイトル	活動のねらい
私は、守護霊ゲーム	守護霊となって客観的に自分自身を見つめ、自分自身の好きな面、嫌いな面について考える。それら全てが自分自身であることを知ることによって、守護霊として自分自身を温かい目で見つめていくことの必要性を感じる。
ノンバーバル・コミュニケーション	聞き手の姿勢や態度が話し手の話そうとする意欲や話しやすさにどう影響するかを知り、これからの活動を進めるにあたって、話し手が話しやすい姿勢で聴く態度のきっかけとする。
人生設計	過去、現在、未来を見つめ人生設計を立て、その後、今、妊娠したらどうなるかを考え、お互いを尊重し、お互いの夢を実現させることの重要性に気づき、どのような行動をとったらいいのかを考えるきっかけとする。
性について考えよう－避妊とSTD－	性の持つ意味について考え、避妊とSTDについての情報を得る。そこからお互いを守るために何が必要かを考える。

＜ 2日目 ＞

ねらい：1　自分自身の存在を認め、相手に自分の気持ちを正確に伝えられる力を身につける。
　　2　人それぞれに価値観があることに気づき、自分の価値観を大切にすると共に相手の価値観も尊重することの重要性を認識する。
　　3　よい人間関係を形成するために必要な態度や話し方について知る。

タイトル	活動のねらい
言って欲しい事ゲーム	自分が言ってほしい褒め言葉を言ってもらうことによって、お互いがそれぞれの存在を認める。またわかっている褒め言葉であっても、褒められるとうれしいことを感じる。
流されて	自分の意見を他人の前で述べることができ、みんなの意見をグループ全員で共有することによって、お互いがいろいろな価値観を持っていることを知る。そして立場を変えると、自分と異なる意見も間違いではないことを理解し、お互いの価値観を認めあうことの重要性を感じる。
私は役者	同じことでも、言い方によって聞き手の印象や感じ方が違うことを体験し、自分の気持ちを正しく伝えるためにどのような話し方に気をつけたら良いかを考える。また、相手のものの言い方から相手の気持ちに注意を払うことの重要性を感じる。
ピアプレッシャー	仲間同士は支え合いにもなるが、時には何気ない一言が相手に大きなプレッシャーを与えることを知る。
ＮＯといってみよう	嫌なことははっきりと断れるよう、また断るためにはどうしたらよいか考える。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

佐賀県におけるピアカウンセリング事業の取り組み

共同研究者：大久保京子　　佐賀県厚生部健康増進課

Ⅰ　昨年度（１年目）の取り組み状況

本県では、HIV 感染者及びエイズ患者の報告数は少ないものの、性感染症については定点報告数の約６割を１０～２０歳代が占め、また１０代の人工妊娠中絶件数についても年々増加傾向にある。

そのため、若者自身が性や生に対する望ましい意思決定や行動変容ができることを目指し、平成１４年度からエイズ・性感染予防対策の一環として、ピアカウンセリング事業に取組んでいる。

１　昨年度の事業展開の概要

初年度は、円滑に事業を立ち上げることができるよう、当課で事業全般を実施した。

(1)事業立ち上げに向けての関係機関との連携づくり。

①ピアカウンセラー養成について佐賀大学医学部との連携を図った。

②高校生を対象としたピアカウンセリングを実施するため、県教育委員会体育保健課及び県内１１の拠点高校との連携を図った。

(2)先進地調査による情報収集を行った。（視察県…宮崎県、高知県）

(3)ピアカウンセリングの知識を得るとともに、他県との連携を図る目的で、保健所職員等を積極的に中央の研修会に参加させた。

(4)当事業の継続及び関係機関との連携強化を図るため、事業実施前に関係者の会議を行った。

(5)１１拠点高校の高校生を対象としたピアカウンセリングを２回実施した。

２　初年度取組んでの課題

(1)ピアカウンセラー養成においては、スーパーバイザーの不在等により養成者の負担が大きいため、県主催の養成講座を検討する必要がある。

(2)ピアカウンセラー及び高校生を支える関係者の意思統一のため、関係者の研修会を開催する必要がある。

Ⅱ　今年度（２年目）の取り組み状況

初年度の課題を踏まえ、当事業が県全体に根付き、地域ぐるみでの若者の支援体制ができることを目指し、今年度は、県内の全保健所（５ヶ所）で地域の高校生を対象としたピアカウンセリングを実施することとした。

１　具体的な事業の展開

(1)関係者の研修会の開催

各保健所でピアカウンセリングを実施するにあたり、関係者への周知を図るため８月に研修会を開催した。

①内容

・県の担当者及びピアカウンセラーによる、取り組み状況の報告。

・講演「ピアカウンセリングについて」

講師：自治医科大学　高村寿子教授

②研修会の参加者

大学・短大、看護学校、小中高等学校関係者、医療関係者、保健行政関係者等、１５１名が参加。

(2)ピアカウンセラー養成講座の開催

ピアカウンセラーの人員確保のため、厚生労働科学研究班に依頼し、ピアカウンセラーの養成を行った。

なお、養成講座を実施するにあたり、募集用のチラシを作成し、県内の大学、短期大学、看護学校に直接出向き、趣旨を説明し学生の参加についての協力を依頼した。

【養成講座の概要】

①日程

平成１５年１１月２２日～２４日

（３日間の宿泊研修）

②養成講座カリキュラム

厚生労働科学研究班の研究カリキュラムにより３０時間の講座実施。

③講師

・自治医科大学　髙村寿子 教授

・宮崎大学医学部　前田ひとみ 助教授

・福島県立医科大学 石田登喜子 講師

・アドバイザー　渡辺純一 氏

④受講者

１８歳～２０歳までの大学２校、短期大学１校、看護学校３校の学生

１９名。

⑤養成講座運営補助者

・先輩ピアカウンセラー３名

・佐賀大学医学部職員

・保健所職員　等

⑥その他

・新聞社２社の取材あり。

(3) 各保健所での地域の高校生を対象としたピアカウンセリングの実施

【ピアカウンセリングの実施状況等】

①養成講座終了後、保健所毎に地域の関係機関を集め、事前の会議を開催し事業への協力を得た。

②ピアカウンセラーの実践に向けての準備

平成１５年１２月２７日及び平成１６年２月２１日に、養成講座修了生、佐賀大学医学部職員及び保健所職員等で、今後の活動、具体的なプログラム及び役割分担等について話し合いを実施した。

③ピアカウンセリングの実施

県内の全保健所（５カ所）で、平成１６年２月下旬から３月下旬までの毎週土曜日に実施。

④ピアカウンセリング終了後は、高校生の感想を参考に、高校生に自分たちの伝えたいことが伝わったか、役割はどうであったか等について、毎回反省会を実施した。

また、関係者同士も今後に向けての意見交換を行った。

２　結果及び今後の課題

(1) 関係者の研修会について

今年度は、８月に関係者の研修会を開催したが、１５１名もの参加があり、各機関のピアカウンセリングへの関心の高さが伺えた。特に学校関係者の参加が９７名と多かった。

(2) ピアカウンセラーの養成について

厚生労働科学研究班の協力を得、ピアカウンセラーの養成を行ったが、事前に関係者の研修会を実施していたため、募集対象の学校に依頼に出向いた際、学校側の反応が良く、特に国立療養所東佐賀病院附属看護学校からは、３０名の学生が参加を希望しているとの連絡を受け、１０名に調整してもらったほどであった。

しかし、養成講座の日程が、大学祭や実習等と重なった学校もあったため、受講者は１９名であった。

受講生の感想としては、実践に向けての企画や準備の時間が足らず、４日間の講座でも良かったのではという意見もあった。

次年度は、早い時期に養成講座を開催し、必要に応じフォローアップ研修の開催も検討する必要がある。

また、養成講座の募集案内作成にピアカウンセラーも参画したいとの提案があっている。

(3)各保健所でのピアカウンセリングの実践について

養成したピアカウンセラーの所属する学校が６校に亙っていたため、連絡調整は当課から課長名で文書を発送するとともに、ピアカウンセラー同士でも連絡調整をしていたが、今後は携帯電話等のメーリングリストを作成し連絡がスムーズに取れるようにしたい。

また、高校生を対象としたピアカウンセリングの実践に参加した養成講座修了者は、１９名中１３名であり、今年度養成したピアカウンセラーのみでは、毎週連続の実践に対応できなかったため、昨年度からピアカウンセリングを実施している、佐賀大学医学部の学生の応援を受けた。

参加した高校生（１２５名）からは、「自分の性についての考えを改めて知り、性は大切なのものだと思った。」「楽しかった。普段考えないことを色々な人と考え、気軽に話すことができてよかった。」「自分も大学生になったとき、ピア側になって参加したい。」等、評価する感想が寄せられた。

また、関係者からは、県の一カ所でピアカウンセリングを実施するよりも、各地域で実施したほうが、関係者も高校生も地域のネットワークを構築しやすく、事業の展開に繋がる。さらに、参加した高校生の自主的活動に繋がるような支援の構築については学校側の課題でもあり、今後もこの事業を継続してほしいという意見が寄せられた。

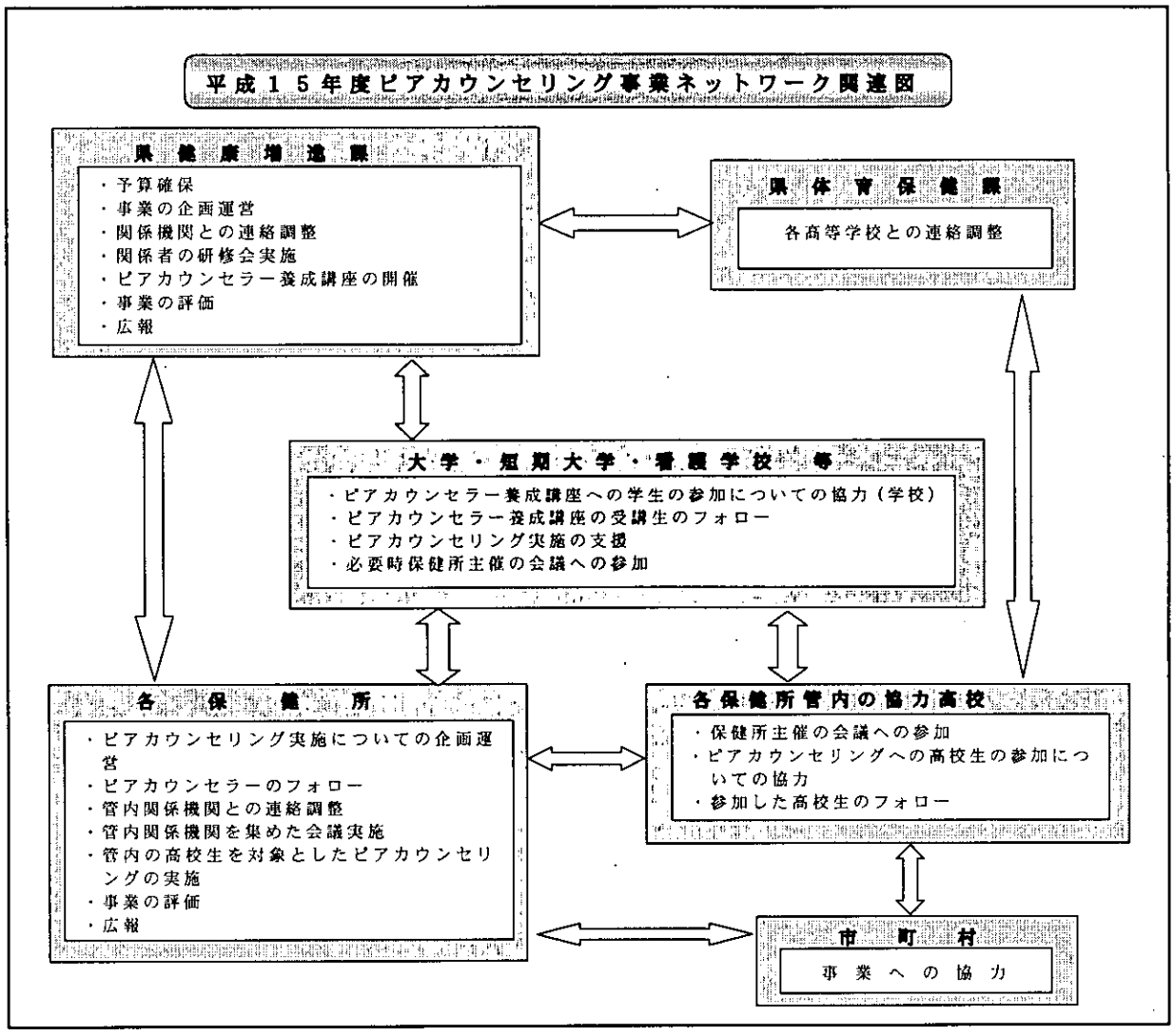
(4)養成講座受講から実践をとおしてのピアカウンセラーの感想

所属する学校が様々であったため、準備等が難しかったが、他校の学生との交流ができ自分たちの考えを深めていけたこと、また、高校生からも得るものが多く、実践を重ねるごとに手ごたえを感じ、自分たち自身の成長に繋がったとの感想があった。

Ⅲ　次年度の予定

母子保健対策の取り組みとして、生涯を通じた女性の健康支援事業（ウイメンズサポートルーム事業）の中で、平成１６年７月から思春期の若者が気軽に相談できる場所を開設する予定であり、現在、関係者を集め準備にとりかかっている。

今後は、高校生を対象としたピアカウンセリングに加え、養成したピアカウンセラーの新たな活動の場が広がるわけであるが、それをしっかりとサポートしていくことがますます重要となってくる。



【高校生を対象としたピアカウンセリングの実施状況】

■テーマ I ♥ for You ～相手のために 自分のために～ ■プログラム（10:00～15:30） ○挨拶、導入（グループ分けゲーム） ○性について（大切さ、価値観等） ○昼休み ○性のリスク、ＳＴＤ、妊娠等 ○晴子の物語 ○ネゴシエーション ○メッセージ、まとめ	参加状況	
	杵藤保健所 H16.2.28(土)	ピアカウンセラー１３名、高校生２７名、関係者等１２名
	鳥栖保健所 H16.3. 6(土)	ピアカウンセラー１５名、高校生２７名、関係者等１６名
	佐賀中部保健所 H16.3.13(土)	ピアカウンセラー１６名、高校生２６名、関係者等１６名
	唐津保健所 H16.3.20(土)	ピアカウンセラー１０名、高校生２３名、関係者等８名
	伊万里保健所 H16.3.27(土)	ピアカウンセラー７名、高校生２２名、関係者等８名

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

鹿児島県におけるピアカウンセリング推進事業の取り組み

共同研究者　野間口聡子　鹿児島県保健福祉部児童福祉課
嶋田　紀膺子　鹿児島大学医学部保健学科

1　事業に取り組んだ目的

全国と同様に10代の人工妊娠中絶，性感染症の増加等の思春期に関する新たな課題が本県においても顕在化している。

本県では，これらの現状を踏まえて，平成13年度に策定された「健やか親子かごしま21」において，「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」を掲げ，下記のア～ウに取り組んでいくこととしている。

ア　学校における健康教育に保健医療従事者等の専門家が積極的に活用される環境づくり

イ　思春期の健康問題に関する周囲の大人たちの理解促進

ウ　思春期特有の問題に関する相談体体制づくり

この中で，思春期の若者自身を参加させるピア・エデュケーションの導入について検討を進めるとしており，平成15年度に予算化し，ピアカウンセリングに必要な知識，本県の現状を踏まえた効果的な進め方等について鹿児島大学医学部保健学科に研究委託した。

2　事業の展開方法及び結果

（1）平成14年度に開催された，「健やか親子かごしま21推進協議会」「健やか親子かごしま21推進協議会思春期保健対策専門部会」において，思春期保健対策の取組について協議した。

（2）平成15年度にピアカウンセリングに取り組むに当たり，下記の項目に添って事業を行うこととした。

ア　ピアカウンセリング実施のためのノウハウの習得（鹿児島大学保健学科学生・教官，保健所保健師）

ピアカウンセリングの実施に当たっては，鹿児島大学医学部保健学科及び保健所等と数回打合せ会を開催するとともに，県教育庁保健体育課に事業を説明し，理解を得た。

また，ピアカウンセリングの展開については，関係者の理解が不可欠なことから，ピアカウンセリングに対する理解を深めるために，ピアカウンセラー養成講座の1回目を県・市町村保健師，高等学校関係者，看護師養成所等の関係者にも公開するとともに，ピアカウンセリング実施1回目と2回目を県保健所職員及び管内の高等学校職員にも公開した。

併せて，それぞれの立場における役割を理解するために，鹿児島大学医学部保健学科教官や学生及び保健所保健師を下記研修会に派遣した。

①鹿児島大学医学部保健学科及び教官，県児童福祉課及び県保健所保健師

第3回ピアカウンセリングコーディネィター研究集会（平成15年9月5日～7日）

②鹿児島大学保健学科学生

第3回ピアカウンセリング集中講座（平成15年8月29日～31日）

イ　ピアカウンセラーの養成

本県においては，ピアカウンセラーが養成されていなかったため，平成15年度は鹿児島大学医学部保健学科の学生を対象にピアカウンセラーの養成を行った。

なお，養成に当たっては，宮崎医科大学（現：宮崎大学）医学部看護学科の前田ひとみ助教授の指導のもと，厚生労働科学研究による「平成14・15年度ピアカウンセリング・ピアエデュケーションマニュアル作成と効果的普及に関する研究班」の主任研究者・高村寿子先生の了解のもとに，研究班によるカリキュラムに準じて行った。今年度における養成講座を表1に記す。

ウ　ピアカウンセリングの実施（鹿児島県川薩保健所）

ピアカウンセラーの養成の一環及びピアカウンセリングの普及啓発を目的として，県保健所1か所をモデル地区とし，ピアカウンセリングを2回実施した。

開催に当たり，管内の高等学校8校に県児童福祉課及び川薩保健所職員とともに説明に行き，ピアカウンセリングに対する理解を求めた。

1回目（9月12日～14日）は，平成

13 年度からピアカウンセリングに取り組んでいる宮崎医科大学（現：宮崎大学）の学生７名を招き，9 月 13～14 日の日程でピアカウンセリングを開催した。鹿児島大学学生も実際のピアカウンセリングを体験するために，ピアカウンセラーの補助をするセミピアもしくは参加者の役割を担った。開催前日は，事前打合せ会を行った。

参加者についてみると，参加実人員 20 人，参加延人員 34 人であった。

なお，選定場所を鹿児島県川薩保健所とした理由であるが，20 歳未満の人工妊娠中絶実施率（15 歳以上 20 歳未満女子人口千対）が県保健所管内において一番高かった（川内保健所：20.1，県：11.6）ためである１）。

２回目（11 月８～９日）は，ピアカウンセラー養成講座の集大成として，鹿児島大学の学生がピアカウンセリングを実施した

（別紙１）。参加者は，参加実人員 27 人，参加延人員 45 人であったが，参加者の中には，１回目のピアカウンセリングに参加した生徒に勧められて興味を持ち，参加に至った生徒もいた。

なお，平成 15 年度における，ピアカウンセリングに参加した高校生の主な感想を別紙２に記す。全体的な意見として，ピアカウンセリングに対して肯定的な意見を持つ高校生が多かった。

３　考察

平成 15 年度は，

ア　ピアカウンセリング実施のためのノウハウの取得

イ　ピアカウンセラーの養成

ウ　ピアカウンセリングの実施

という項目に添って事業を展開した。

ア　ピアカウンセリング実施のためのノウハウの取得であるが，一年間の取組を通して，鹿児島大学及びモデル地区であった川薩保健所では，事業の進め方はある程度理解できたものと思われる。

しかし，ピアカウンセリングに参加した高校生が緊張したり，自由に発言できなくなったりしないよう，公開の際には見学する職員を各保健所１名としたため，実際のピアカウンセリングを体験できた保健所職員は少なく，県保健所全域においてピアカウンセリング実施のためのノウハウが取得できたとは言い難い。

なお，平成１７年度以降，県・市町村は，次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画に基づき，「思春期保健対策の充実」に取り組むこととなり，その中で県は効果的な情報提供の体制整備，関係機関等のネットワークづくりを進めることとされ，市町村は性に関する健全な意識のかん養と併せて，正しい知識の普及を図ることが必要とされている。

今後は，市町村がこれらの行動計画に基づき，性に関する健全な意識のかん養，正しい知識の普及を図ることができるよう，県も支援していくことが必要である。中でも，具体的な取組の一つとしてピアカウンセリングが実施されるよう，市町村に対しても，平成 16 年度は普及啓発を図る必要がある。

また，地域におけるピアカウンセリングの実施に当たり環境整備の役割を担うピアカウンセリングコーディネーターの育成も必要であると考える。

次に，イ　ピアカウンセラーの養成であるが，今年度は宮崎医科大学（現：宮崎大学）医学部看護学科の前田助教授の指導のもと，厚生労働科学研究による「平成 14・15 年度ピアカウンセリング・ピアエデュケーションマニュアル作成と効果的普及に関する研究班」によるカリキュラムに準じて行った。

今後，永続的に県内においてピアカウンセラーが養成され，そのピアカウンセラーの活動を身近に支えながら，地域に根づいた活動を行っていく体制を作るためには，ピアカウンセラー養成者の存在が不可欠である。このことから，今後，ピアカウンセラー養成者の養成についても検討していく必要性がある。

最後に，ウ　ピアカウンセリングの実施であるが，今回，参加した高校生からは，ピアカウンセリングに対して全体的に肯定的な意見を得た。

この事業を通して，川薩保健所管内各高等学校のピアカウンセリングについての理解を深め，思春期保健に関する学校と地域の連携を深める一つの契機にもなったと考える。

しかし，同時に，県内でピアカウンセリングに取り組むのは今年度が初めてであったため，どのような生徒が対象となるのか，また，自尊感情を高めたり，性に関する正しい知識を得る機会として参

加して欲しいと考える生徒はなかなか参加に結びつかないがどうすればいいか，というような意見も高等学校側からいただいた。

今後は，参加者の募集方法について，また，地域の実情に応じた内容とするために，一層学校保健とも連携を図りながら，事業内容を検討していく必要がある。

また，市町村等関係機関にも働きかけて，ピアカウンセリングを実施する場の確保に務める必要がある。

4　結論

ピアカウンセラーの養成を行い，今後，関係機関からの要請に応じて派遣できる体制を整える第一歩となった。

川薩保健所管内の各高等学校の関心を高めることができ，思春期保健に関する学校と地域の連携を深める契機となった。

参加した高校生が性や避妊に対する正しい知識を深めることができた。

今後は，ピアカウンセラー養成者の育成及びカウンセラー養成体制の確立を図るとともに，市町村等関係機関でも開催できるよう，事業の広報，周知の徹底に務める必要がある。

5　おわりに

今年度の取組を通して，関係機関と一層の連携を図り，効果的な事業運営ができるよう更に検討していきたい。

※1）平成15年度に川内保健所と宮之城保健所が統合し，川薩保健所になった。

参考　　ピアカウンセリング推進事業の展開

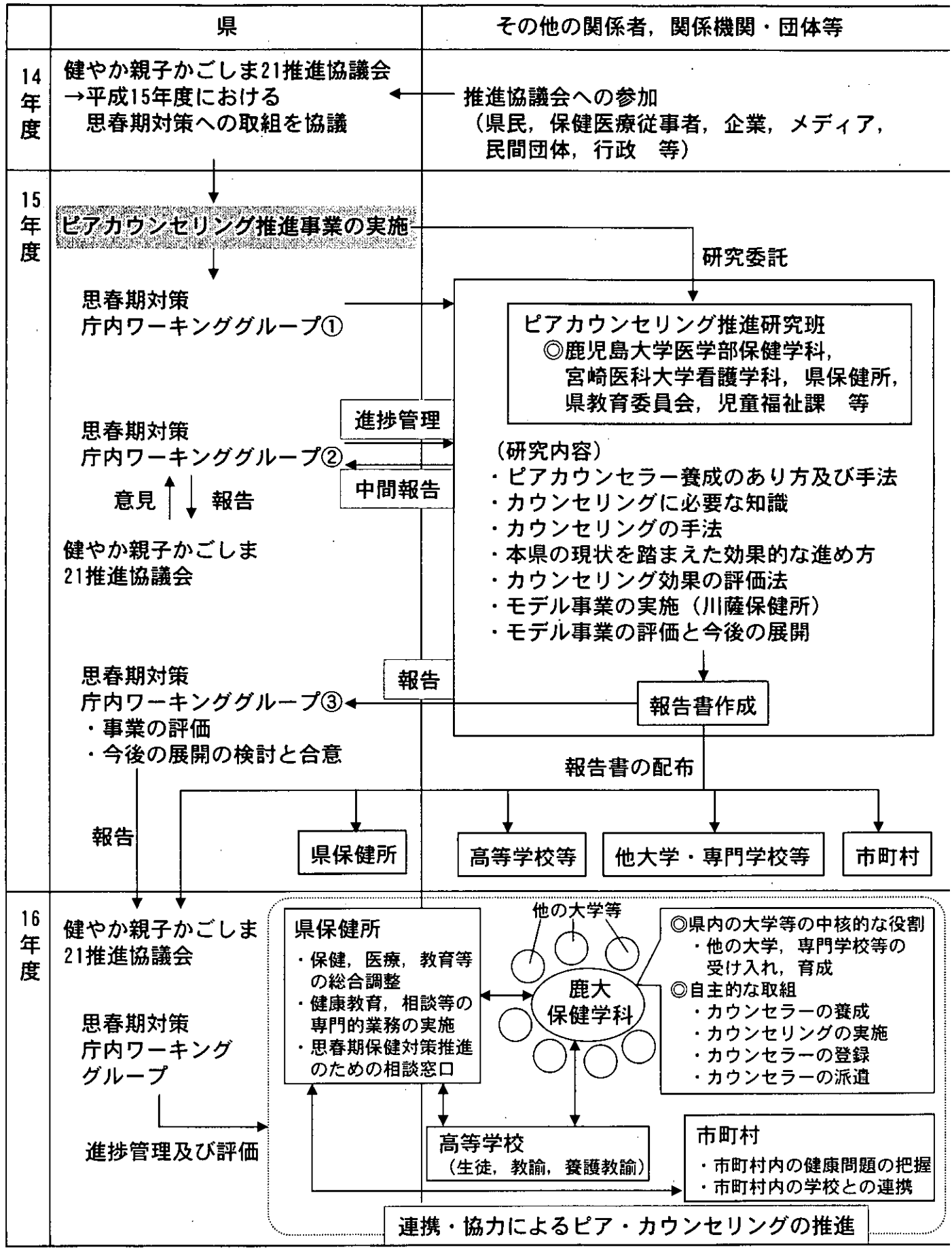


表１

ピア・カウンセラー養成に係る講座一覧

ピア・カウンセラー養成講座	開催日時・場所	内　　容	講師等	対象者
第１回	８月21日（木） 13:30～15:30 鹿児島大学医学部保健学科新館６階 インテリジェンス講義室	・講演 「自分探しの散歩道～ 宮崎県でのピアカウンセリングの取組から」	宮崎医科大学 前田助教授	・鹿児島大学医学部保健学科教官・同学生 ・保健従事者 ・教育関係者　等
第２回	９月12日（金） ～９月14日（日） 川薩保健所	・ピア・カウンセリング実施１回目 ・宮崎医科大学生が，ピアウンセラーとして実演（９月13・14日）	宮崎医科大学 前田助教授 山崎助手 同学生	・鹿児島大学医学部保健学科教官・同学生 ・川薩保健所管内高校生　等
第３回	９月26日（金） ～９月28日（日） 鹿児島大学	・ピア・カウンセラー養成カリキュラム講義 ・ピア・カウンセリング２回目実施準備	宮崎医科大学 前田助教授 同学生	・鹿児島大学医学部保健学科教官・同学生　等
第４回	11月８日（土） ～11月９日（日） 川薩保健所	・ピア・カウンセリング実施２回目 ・鹿児島大学生が，ピア・カウンセラーとして実演	宮崎大学 前田助教授 鹿児島大学保健学科教官及び学生	・川薩保健所管内の高校生 等

別紙1

タイトル： GET　MYSELF

1日目

ねらい　1．自分自身のいろいろな面を知り、自分についての理解を深める。
2．自分らしさと他人を認め合うことの重要性を知る。
3．自分自身の存在を認め、相手に自分の気持ちを正確に伝えられる力を実につける。
4．よい人間関係を形成するために必要な態度や話し方について知る。

タイトル	活動のねらい
フルーツバスケット	ゲームを通してピア・カウンセリングの基礎となる「ピア」＝「仲間」の意識を高めてもらう。
仲間探し	非言語活動をすることで、人とのつながりを深める。
パペット・マメット	自分のことを客観的に見つめ、自己紹介することで自分を知る機会とし、また、他人に知ってもらう。
Let's Communicate	聞き手、話し手の両者を体験してもらうことによって、言葉や態度により、伝わり方・受けとり方の個人の違いを実感し、コミュニケーションについて改めて考えてみてもらう。
スキル de トライ	1日目で学んだ様々なスキルを用いて、問題を解決していき、復習してもらう。それに加えて、問題を解決していく上で、協力とはどのようなものかを体験してもらう。

2日目

ねらい　1．避妊と性感染症についての知識を得て、お互いを尊重し、夢に実現に向けた人生を歩むためにどのように行動したらよいかを考えるきっかけとする。
2．人それぞれに価値観があることに気づき、自分の価値観を大切にするとともに、相手の価値観も尊重することの重要性を認識する。

タイトル	活動のねらい
君のここが素敵だよ ☆ゲーム	ほめられることで自分のよさを再確認・新しい発見をし、思っていることを相手に伝え、表現することの大切さを学ぶ。
ビンゴ de ゴー	性について真剣に語り合える場を提供し、友達の意見を聞き、自分の意見を言うことで様々な価値観の中で共通点・相違点があることを理解する。
人生設計	自分の将来予想・希望を立てることによって「自分」を知る。また、妊娠についての知識をつけ、“今、妊娠した／させた”ことについて考え、妊娠の影響について考えてもらう。
避妊・STD	妊娠のメカニズムと正しい避妊法、STD の種類や症状、検査などについて、正しい知識を得るとともに、その重要性を理解してもらう。
コンドームスキル	現在、日本で一番普及し、避妊効果も高く、STD の予防にも役立つコンドームの正しい使い方を身につける。
○×クイズ	避妊、STD、コンドームについての知識を確認して深め、知識を自分のものにする。
ネゴシエイト	相手に自分の意見を納得してもらうためには、自分の意思をどのように相手に伝えればよいか考え、そのスキルを身につける。
そしてあなたは・・	性について様々な情報を知り、それを含めて、自分はどう行動すべきか、どれを選択すべきなのか、自分自身について考える機会を持ってもらう。

別紙2

平成15年度のピア・カウンセリングに参加した高校生の感想（抜粋）

①今回のプログラムで、自分のためになったことはどんなことですか?

1　避妊について

・避妊とか、性感染のことをこんなに詳しくやったのは初めてですごく勉強になった。
・避妊の仕方が詳しく分かった。コンドームの付け方も為になったと思う。
・コンドームの付け方を具体的にピアに教えてもらった。実際にやってみなきゃ分からないし，すごく役に立つと思う
・避妊とかすごく身近なのでためになりました。
・性のことについて，普段ちゃんと考えていなかったので考えるチャンスが出来て良かった。
・もっと避妊やＳＴＤ予防のことを考えないとなと思った。

2　コミュニケーションの取り方について

・人と接する方法。これからは，相手の気持ちを考えて意見を言えるはず・・・。
・もう一度，自分自身を確認することが出来た。
・ネゴシエイト（交渉）で，自分と違う意見を持っていて、色んな人がいるんだなと思った。
・自分から話す勇気があることに発見できた。・発言のタイミング、間のいい応答の仕方

②自分のことについて考えたこと、新たに発見できたことがあれば書いてください。

・自分をもっと大事にしてあげなきゃと思った。
・初めて参加だったけど，友達がたくさん出来たし、ピアっていいな！って思った。
・自分の素敵なところを発見できた。性・生に対して自分の考えをまとめられた。
・初対面の人と色々な話が出来て，人の数だけ色々な答えがあると思った。
・人生設計とか日頃しないことをして人生について，改めて考えられて良かった。
・人としゃべっているときに自分はもしかしたら嫌な態度をしていたかも。気を付ける。

③性について考えたこと、新しく気づいたことがあれば書いてください。

・その時の気持ちだけでしちゃダメだと思った。
・学校では出来ないことを学んだ。・何回勉強しても難しい。
・すごく大切に思える人とちゃんと話し合って、性は真剣に考えねばと思いました。
・もっと避妊やＳＴＤ（性感染症）予防の事を考えないとなって思った。
・ＳＥＸだけでなく，人間関係もあるとは思わなかった。
・色んなＳＴＤがあることを知り、改めて怖いなあって思った。
・性とは奥が深いということを改めて感じた。
・愛は止められない☆でも，暴走はしない！！

④この2日間参加してみての感想や要望などをお書きください。

・大学生ピアの方に話を聞けて嬉しかった。性についてもまじめに考えられた。
・勉強になったし，参加してよかった。
・すごい楽しくて，時間的にもスムーズだった。
・色んなことして，楽しく性について考えられたしおもしろかった。
・もっと色んな人に来てもらいたいから告知をふやして欲しいです。
・とにかく楽しかったです。がんばって準備したんだなぁというのが伝わってきたです。
・話し方が「～だよねぇ」とか「～だよねぇ」って言い方だったんで，親しみやすかった。
・ゲーム感覚で楽しめた。
・ビデオとかカメラはちょっと苦手です。
・最初，入ってきた時，大学生ばかりですごくびっくりして，朝みんなで「かえりたいなぁ」とか言ってたけど，２日間大学生の人と色んなゲームや話をして楽しかった

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

秋田県におけるピアカウンセリング事業の取り組み

共同研究者　清水昱子 秋田地域振興局福祉環境部
（秋田中央保健所・秋田福祉事務所）

1．事業の目的

秋田県では、保健と福祉が一体となった取り組みをより積極的に推進するため平成 12 年 4 月に保健所と福祉事務所を統合した、健康福祉センターを設置した。秋田中央健康福祉センターにおいては、県内における 20 歳未満の人工妊娠中絶数、すなわち「望まない妊娠」が増加していることに加え、性感染症・エイズ等の報告件数が全国的に減少傾向にないことから、平成 13 年度から、思春期教育の手法の 1 つであるピアカウンセリングの実践を通じ、青少年の望まない妊娠や性感染症を予防するための自己決定能力の向上に向けた取り組みを推進してきた。事業は、所内の疾病予防、母子保健、子育て支援の各担当が横断的に連携して実施してきた。（H 15 年 4 月から秋田地域振興局福祉環境部に改組）

2．ピアカウンセリングの各年度の取り組み

1）平成 13 年度における取り組みの概要

（1）青少年の協議会の開催（H13.9.26）
高校生 5 名参加。「性」に関する資料を提示、感想や意見を集約。

（2）地域住民による地域協議会の開催（H13.11.13）
地域住民 9 名参加。青少年の協議会の感想、意見を踏まえ、現状における問題点の抽出。

（3）思春期とピアカウンセリングについての研修会の開催　（H13.11.24）
地域住民、市町村職員等 62 名参加、「なぜ今、ピアカウンセリングが必要か」を意識啓発。
講師：自治医科大学看護学部　教授　高村寿子　他

（4）ピアカウンセラー養成講座の開催（H13.11.24～11.25）
県立短大生 8 名、日赤短大生 7 名、県立衛看生 5 名参加。青少年がお互いに尊重しあい、「望まない妊娠」や性感染症を予防するため、主体的に自分の生き方や性行動の選択を自己決定するための学習会を開催。
講師：自治医科大学看護学部　教授　高村寿子　他

（5）ピアカウンセリングの実践「高校生のためのセクシュアリテイ講座」開催（H14.1.12）.
ピアカウンセラー13名が高校生7名に実践。

（6）青少年、地域住民による合同会議の開催　（H14.1.12）
高校生 20 名、住民 8 名参加。課題の共有と解決策の検討等。

まとめ

○ ピアカウンセラー
管内の県立大学短期大学部（県立短大）、秋田市にある日本赤十字秋田短期大学（日赤短大）、県立衛生看護学院（県立衛看）の 3 校に募集を依頼した結果、1 校あたり 5 名から 8 名の応募があった。

○ ピアカウンセラーの養成
研修会、養成講座は自治医科大学 高村教授等に指導を依頼した。養成講座は、①性に対する正しい知識を学び自己決定能力を高める,②ピアカウンセリングのスキルを学ぶこと、③学んだことを生かしセクシュアリテイ講座を開催することを目的に開催した。初期の目的はほぼ達成することができたが、学生から養成講座の受講時間が少なく実践に対しての不安が残るとの指摘があった。

○ 高校生・地域住民の参加

高校生、地域住民を対象とした協議会は学校、ＰＴＡ等の関係者に対する協力要請が不十分だったこともあり、参加者が少なかった。また高校生へのピアカウンセリングの実践は、高校生の参加が少なかった。

○ ピアカウンセリングの実践については、参加した高校生や地域住民から肯定的で、期待する意見が多く寄せられた。ピアカウンセラーとなった学生からも、自分自身の学びが多く更に技術を磨きたいとする積極的な意見があった。

2）14年度における取り組みの概要

13年度実施の反省等を踏まえ、事業内容を「ピアカウンセラー養成」に特化し実施することとした。

（1）ピアカウンセリング指導者の育成

① 第1回ピアカウンセリング指導者研究集会に参加（H14.6.14～6.15）

保健師3名（疾病予防、健康予防、母子保健各担当1名ずつ）が参加。主催：（社）日本家族計画協会　後援：厚生労働省等

② 第2回ピアカウンセリング指導者研究集会に参加（H14.12.21～12.23）

保健師1名が参加（疾病予防担当）。主催：（社）日本家族計画協会　後援：厚生労働省等

（2）ピアカウンセラーの養成

① 第1回ピアカウンセラー養成講座（中央研修）への派遣（H14.10.11～10.14）

ピアカウンセラー希望者19名の中から代表3名の学生とサポーター2名（日赤短大教員1名、センター保健師1名）が参加。

主催：厚生労働科学研究ピアカウンセラー養成マニュアルに関する研究班

② 伝達研修の開催　（H14.11.4）

中央研修に参加した学生3名による、他の学生16名への伝達研修。

③ ピアカウンセラー養成講座宿泊研修の開催　（H14.12.21～12.22）

学生19名が参加。伝達研修で不足した「カウンセリングの実際」、「エイズ・性感染症」、「セクシュアリテイ」について、臨床心理士、保健所長、看護教員による講義や実技講習の後、実践に向けての実習を行う。

（3）ピアカウンセリングの実践（H15.1.19）

養成されたピアカウンセラー19名が、高校生17名にピアカウンセリングを実践。

まとめ

○ ピアカウンセラー

県立短大、日赤短大、県立衛看の3校から19名の学生が参加。

○ ピアカウンセラーの養成

学生の代表3名を中央研修に派遣。他の16人の学生には伝達研修を実施。不足部分は宿泊研修で補い養成講座の充実を図った。中央研修にサポーターとして参加した日本赤十字秋田短期大学講師羽入雪子氏が学生の養成から実践までを一貫して指導。

○ 高校生の募集

①県高校教育課に主旨を説明し、管内高校への働きかけを依頼、②男鹿南秋地域の5高校へチラシ・ポスターを持参し協力依頼、③世界エイズデイーに主要なＪＲ駅前でチラシの配布、④市町村広報などを通じた呼びかけを行ったが、直接の参加にはなかなか結びつかなかった。高校生の参加については、仲間の誘いや他からの働きかけが必要であるとともに、ピアカウンセリング自体のＰＲが必要と感じた。

○ その他

ピアカウンセラーの学生は宿泊研修を通し、仲間としてのつながりを深め、実践に向かって志気を高めた。 終了後アンケートにおいて、学生からは多くの仲間ができた、仲間と一つのことを成し遂げた充実感や達成感を感じた、時間的余裕があれば継続して活動したい

等の回答があった。また高校生は、参加して参考になったとの声が多く、大半が他の友人にも勧めたいと答えている。

また、県南部の保健所の依頼を受け、ピアの代表3名が出向き地域の関係者（学校・市町村等）に対するピアカウンセリングの紹介を行った。

3）15年度における取り組みの概要

（1）ピアカウンセリング指導者の育成

① 第3回ピアカウンセリング・コーデイネーター研究集会に参加（H15.9.5～9.7）

保健師1名（疾病予防担当）が参加。

主催：（社）日本家族計画協会　後援：厚生労働省等

（2）ピアカウンセラーの養成

① 東北4県合同ピアカウンセラー養成セミナーへ参加（H15.10.11～10.13）

ピアカウンセラー希望者14名の中から1名の学生が自費参加。

主催：厚生労働科学研究ピアカウンセラー養成マニュアルに関する研究班

会場：福島県

② ピアカウンセラー養成講座前期宿泊研修の開催　(H15.11.1～11.3)

学生15名が参加（内1名は平成14年度の先輩ピアがサポーターとして参加）。日赤短大羽入氏が全体の指導にあたり、先輩ピア1名と上記セミナー受講者がサポートした。研究班で作成された養成セミナーのカリキュラム（30時間）に沿った内容で実施。

③ ピアカウンセラー養成講座後期研修の開催　(H15.11.29)

学生14名が参加。ピアカウンセリングの実践に向けた企画書の作成等を実施。（この他にリハーサル等を2回実施）

（3）フォローアップ研修の開催 (H15.11.3) (H15.11.29)

昨年養成されたピアカウンセラー19名中14名が参加。今年度の学生を対象とする養成研修に参加し、ピアカウンセリングの復習に加え、今年度の実践に対する助言や準備へのサポートを行った。

（4）ピアカウンセリングの実践 (H16.1.18)

① ピアカウンセラー14名が、高校生29名にピアカウンセリングを実践。

先輩ピア3名がオブザーバーとして参加し、全体に対する助言・指導。

② 先の県南部の保健所の依頼を受け、フォローアップ研修を終えた先輩ピア14名が県南部の高校生20名を対象にピアカウンセリングを実践した。(H15.12.20)

（5）ピアカウンセリングの普及啓発

① 事業報告会の開催（H15.3.12）

3年間の事業のまとめの報告会と研修会を開催し、関係者に普及啓発をした。参加者ー32名。（高校2名、短大・看護学院2名、教育委員会1名、警察関係3名、県1名、他保健所13名、当部職員10名）

② ピアカウンセリング実践ビデオの高校への配布

「高校生のためのピアカウンセリング」実践のビデオを作成し、県立・私立高校19校へ普及啓発用に配布した。

まとめ

○ ピアカウンセラーについて

県立短大、日赤短大と県立衛看の3校から14名の学生が参加。

○ ピアカウンセラーの養成

日赤短大講師羽入氏が学生の養成から実践までを指導。養成講座は研究班で作成された「養成モデルセミナー」のカリキュラムに沿った内容としたが、前期研修（2泊3日）と後期研修（1日）に分け実施した。